

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。
 これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。
 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
	合計 100

記入方法

[取り組みの事実]
 ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)
 [取り組んでいきたい項目]
 今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。
 [取り組んでいきたい内容]
 「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。
 また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。
 [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)
 日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム よしの村 さくら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市吉野町3823 - 1
記入者名 (管理者)	竹下 明子
記入日	平成 19 年 4 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
■ 1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の意見にて作りあげている		常あるごとに方針の話をする
■ 2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	紙面により常に目につくところに掲示されている		常あるごとに方針の話をする 全ての職員が述べ方針の具体化に取り組む
■ 3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内の掲示をおこなっている		家族への便り等や地域への便り等掲示物への記載
2. 地域との支えあい				
■ 4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入している又町内会の方々によしの村の季節行事(しめ縄作り餅つき等)のお手伝いを声掛けし協力していただいている		日常のお付き合いがなかなかまだ出来ておらず検討必要
■ 5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り(8月)を開催しており交流を図っている。 町内会の行事(運動会等)を見学に行っている。		運動会(小・中学校等)や敬老会などへの参加

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	研修、ボランティアの受け入れをおこなっている		認知症の理解や関り方等の相談対応を図る
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を生かし改善に取り組んでいる		要改善箇所だけでなくできている箇所の維持や工夫を図る
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議未実施(メンバー構成中の為)		早期の運営推進会議の開催
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あまり取り組んでいない		市町村担当者との行き来する機会を設け質の向上に取り組む
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	あまり取り組んでいない		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち活用できるように取り組む
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あまり取り組んでいない		虐待防止を学ぶ機会を作り見過ごすことのないように注意を払い防止に努める

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行っている		十分な理解、納得が図れるよう行う
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の中で話をして意見や苦情等が表出できるように心がけている苦情窓口の職員を取り決め掲示している 外部の相談窓口を掲示している		意見、苦情等を表せる機会をもっと設ける
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に状態報告している。金銭(お小遣い等)は金額が少なくなった時にTELする。 検査等の結果はその都度TEL連絡。暮らし振りや職員異動は便り(よしの村便り)にて報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の職員を取り決め掲示している 外部の相談窓口を掲示している 家族会等で話をしている		意見、苦情等を表せる機会をもっと設ける
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会議等を実施しその中で聞く機会を設けている 個別に話を聞いている事もある		意見、苦情等を表せる機会をもっと設ける
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ出来る範囲内にて勤務の調整をおこなっている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は1～2名の範囲内で実施 退職等はダメージの少ないように説明している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	よしの村内の研修は月1回程度にて計画実施している。その他の研修への参加を勧めている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり取り組んでいない		地域の同業者と交流する機会やネットワークづくり、勉強会、相互訪問等の活動に取り組む
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々に任されている 職員同士の親睦会を開催している		外部者と接する機会を設けたり悩み等の聴取をおこなう
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	賞与の支給、5年・10年勤続表彰等がある 皆勤手当、キャリア給等の支給		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人より入所時間聞いて受け止めるように心がけている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族より見学時や入所時等にて聞いて受け止めるように心がけている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	状況に応じ出来る範囲内にておこなっている		本人が十分納得した上でのサービス利用をもっと増やした い
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの料理、行事を利用者の方々に聞き一緒に作っ たり行ったりしている。		回想法をもっと取り入れていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	面会時やTEL連絡時等にて話をしている		家族等と職員の十分なコミュニケーションの充実を図る 親睦会の実施等
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	本人の希望を家族へ伝えている(面会時やTELにて)		家族と本人の十分なコミュニケーションの充実を図る
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	家族等に相談し出来る範囲内の支援に心がけている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	利用者同士の交流を図れるように努めている(レク、情報提供 など)		より良い関係作りのために工夫する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人、家族等の要望があれば応じ支援している		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞き伝えたい事や希望が表出できるように努めている又家族に相談している		自発性が出るように場面作りや環境作りを整える
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等へ聞き取りや入所前のサービス利用所等より情報提供を受け書類作成している		全職員の熟知
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別に記録しどの職員がみてもわかるようにしている(具体的、正確に) 情報伝達を確実にこなしている(重要な事などは別紙ノートにも記載活用している)		全職員の熟知
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人、ケアマネ、担当者で話し合い作成している。(日頃より家族面会時に意見を聞いている) Dr、訪看には往診時に意見を聞いている		Dr、訪看、PT(必要であれば)の参加時間の都合もありなかなか現実できない
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示し期間が終了する際に見直しを行っている 状態の変化(骨折、疾病の悪化等)に応じ見直し作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を生かしケアプランにそった実践の記録を作成している カンファレンスにて見直している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて法人内(老健、病院、ケアセンター等)機能を活用支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事でのボランティアの方の参加 地域の方々の参加がある 年2回の避難訓練		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	意向や必要性があれば支援するが今はおこなっていない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向や必要性があれば支援するが今はおこなっていない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に状況を報告、相談している 必要とあらば他科受診を行っている		

鹿児島県 グループホームよしの村(さくら)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に状況を報告、相談している 必要とあれば他科受診を行っている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制をとっており週1～2回訪問看護を受けている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族、病院関係との連携を図っている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	書式、方針あるが現在対象者がいない		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	書式、方針あるが現在対象者がいない		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族に相談し出来る範囲内の協力をもらっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の人権の尊重に努め、声掛けや対応に心がけている	相手の行動を受けとめ心に余裕をもって対応する
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何か行うときは声掛けし返事を待って行う	自発生が少ないと職員で決めてしまう事が見られる為、場面作りや対応の工夫を行う
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせる様に心がけている	職員の都合が優先になってしまう事がみられる為、常に利用者が自由なペースが保てるようにまた利用者に合わせて状態にそっての支援を工夫する
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容室を利用している(家族が連れて行かれるところを除く)	家族と協力して以前(入所前)に利用していた行けるようにしていきたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできる範囲内の事(野菜切り、下膳、配膳等)をいただいている 季節の物、行事食等(ひな祭り、クリスマス等)をとりいれている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾病の関係で100%希望通りにはいかないが出来れ範囲内で望む物を提供している	

鹿児島県 グループホームよしの村(さくら)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便秘予防の為、牛乳・ヨーグルト・具だくさんの味噌汁等をお出ししている 一人一人の状態に合わせて下着・オムツ・パットを使い分けしている 排泄チェック、記録をし支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当日の状態にて入浴の声掛けし確認後入浴していただいている 夜勤帯の入浴は職員配置、リスクを考え行っていない		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動(レク・体操・散歩等)行っている 適度な運動を声掛けにて勧めている 状況に応じDr、訪看に相談している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状態に合わせて出来る範囲内で場面作り等の支援を行っている		出来る事を細かいところまで認識し出番や役割等楽しみ事の場面作りを支援する
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態を考慮すると所持は難しいが買い物へ同行し買い物を楽しんでいただいている		家族等の協力を得て買い物等への支援をする
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や状況に応じて散歩・ドライブ・中庭でのお茶等支援している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	菊祭り・コスモス見学・桜見物等行っている		ふるさと訪問、墓参り等は家族の協力がなければ実現しにくい為、家族への協力をいただけるようにもっとお願いする

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状態で違うが本人が電話をかけたり手紙を書いたり出来ない場合は電話や手紙の協力を家族にお願いしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来やすい雰囲気(職員の対応など)作りを心かけている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや資料はある		全ての職員が対象となる具体的な行為や正しく理解しケアに取り組む
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない		弊害を十分に理解し取り組む
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在、様子、安全に心がけている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じスタッフ見守りしながら使用していただいている(野菜切りの包丁使用、はさみ使用など)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応の方法を決めている(詰所内に掲示) 研修(外部、内部研修等)を受けている 勉強会等にて職員で話し合い事故防止に取り組んでいる 緊急事態が発生した場合は事故報告をまとめ改善に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回、研修(外部、内部研修等)を受けている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練をおこなっている		地域の方々への協力を得られるように働きかける(町内会や近隣住民の方々)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や介護計画作成の話し合い時に現在の状態で起こりうるリスク等について話している。		リスク対策委員会検討中
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の状態(持病、アレルギー等)を把握し変化や異常を早期に発見できるように注意し記録に残し職員が情報の共有できるように行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人がDrの指示どおりに服薬できるように支援し様子観察している 副作用までは詳しく理解していない		薬の効用、副作用等を熟知する
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳・ヨーグルト・具だくさんの味噌汁等をお出ししている 散歩や体操等、適度な運動をおこなっている 月1回の体重測定、毎食食事量のチェックをおこなっている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	状態に応じ歯磨き、義歯の手入れ、うがいの支援をおこなっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量をチェックし記録に残して状態に合わせて支援している		水分量が十分とれるように工夫する
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防、対応の取り決めし実行している		マニュアルの周知がまだまだ必要
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必要に応じハイター等の消毒清掃をおこなっている 買い物日を決め冷蔵庫、保管所の食材の確認をおこなっている		定期的に消毒清掃をおこなう
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに鉢植えの花が置いてあり室内にも花を置くように心がけている 花壇や畑をおこなっている		表札の工夫
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快にならない様に配慮し季節感を感じていただけるように(行事の飾り等)工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルスペースを2ヶ所、ソファースペースを2ヶ所設けている		もっと活用の工夫が必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や馴染みの装飾品がある(家族に相談し持ってきていただいている)		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時や掃除時は必ず換気している 冷暖房の温度調節を適切に行うよう努めている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関あがりやホール内、トイレ、浴室に手すりを設け身体状況に応じ使用している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所間違いにより混乱や失敗を招かないようにトイレや居室等に目印の工夫をしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑を設けている		夏場の日よけの工夫

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	4	ほぼ全ての利用者の
		5	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	9	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	8	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1	ほぼ全ての利用者が
		8	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		4	利用者の1/3くらいが
		3	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	6	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	8	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	4	ほぼ全ての家族と
		4	家族の2/3くらいと
		1	家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

鹿児島県 グループホームよしの村(さくら)

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		9	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
		9	あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	9	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1	ほぼ全ての利用者が
		8	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		9	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- * 毎日野菜の下ごしらえ(野菜きり等)行っている。
- * 季節の台所仕事として切り干し大根、干し柿作り、ツワの皮むき、キンカ漬け等を一緒に行っている。
- * 笑顔で過ごせ笑い声が聞かれるように工夫している(スタッフ、家族を交えて雑談をする等)
- * 一人一人の利用者とゆっくりした時間を作り会話をし気持ちをリラックスしてもらう